研究期間
R5～R7

自然共生への行動変容につながる情報デザイン

長野県環境保全研究所 自然環境部

SDGsにおける生物多様性と気候変動について、具体的な行動に繋がる情報を発信します。

なぜ研究が必要なの？

＜**現状**＞信州の自然環境は気候変動等の危機にさらされています。
多くの環境問題は2030年までに対応しないと
取り返しがつかなくなると考えられています。

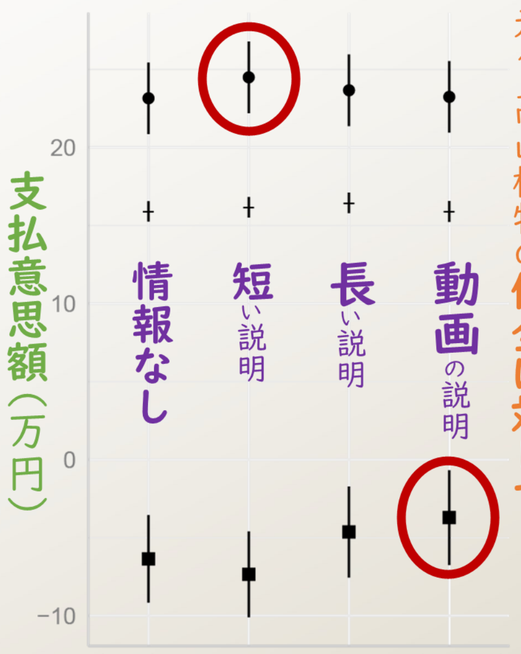
＜**課題**＞私たちの**価値観**と**行動**を**変える**ために
効果的な方法を見つける必要があります。

＜**目的**＞人と自然が共生する持続可能な社会の実現に向けて、
信州の生活・農林業・観光業・健康等の各分野で実践でき
具体的で受容しやすい情報デザインを検討・展開します。

どうやって研究するの？

1. **情報提供の方法**が保全への協力意識に与える影響をアンケートで調べました。
2. その結果、もともと保全に**協力的**な人には**短い説明**が、**非協力的**な人には**動画**による説明が**協力意識**を**高める**ことが示唆されました。
3. この結果を受け、学習交流用資料の**文字量**を**削減**する等の見直しを行いました。
4. 県の生物多様性サイトへもインプットしました。
（https://www.shinshu-ikimono.pref.nagano.lg.jp）

情報提供の**量**や**方法**が**協力意識**（支払意志額）に与える影響と
回答者の環境意識（**個人属性**）の関係（交互作用）



（縦線はエラーバー、95%信頼区間）
交互作用は統計的に有意

元々、高山植物の保全に対して
●協力的 →短い情報
■非協力的 →動画
平均的

効果が高い

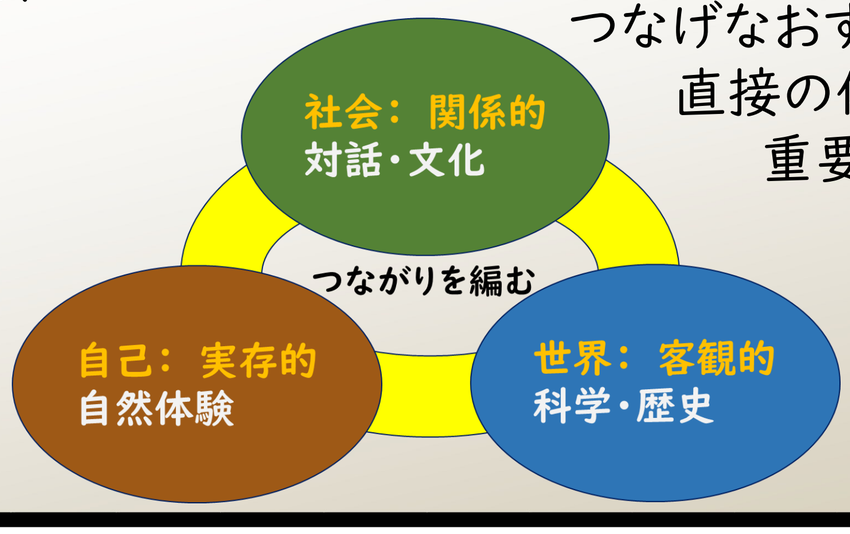
認知コストが低い？

感情に働きかけ
マイナスイメージを軽減？

希少な野生動植物の写真をSNSにあげるときは、詳しい場所がわからないようにする。

←(参考)
https://www.lifesci.tohoku.ac.jp/date/detail---id-51404.html

今後の展望

① **表層**は**簡潔**でも、
興味に応じて
深掘りしていける
階層性のある
情報デザインを
検討します。

② 私たちの生活を自然環境とつなげなおすには、直接の体験が重要です。